

令和7年度 体力等調査の結果について

令和7年度に実施された体力等調査の結果について、杉並区立小・中学校の結果を報告します。

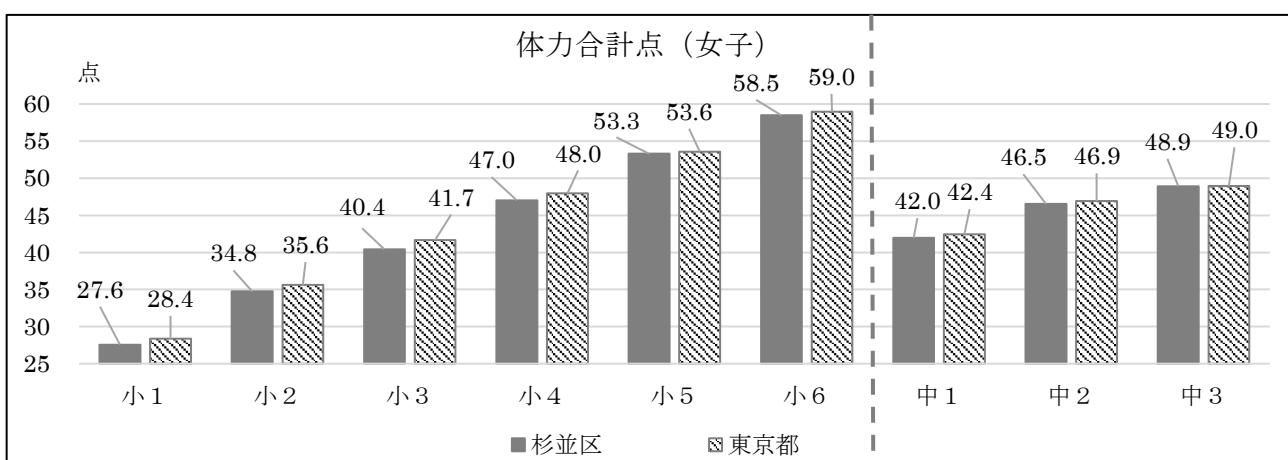
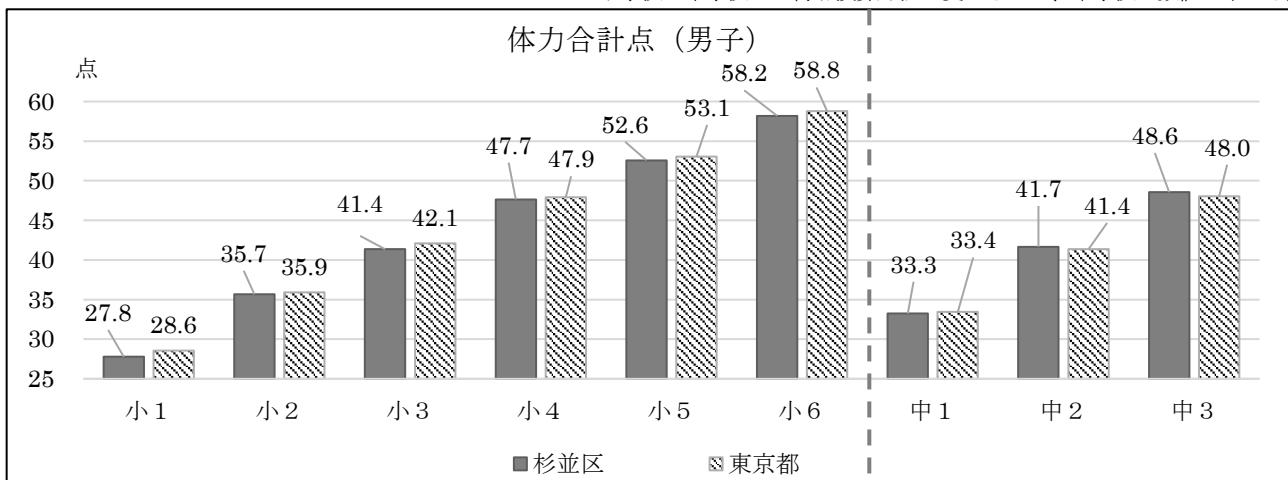
1 体力等調査の概要

実施	東京都教育委員会
名称	令和7年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査
目的	東京都の児童・生徒の体力・運動能力及び生活運動習慣等の実態を把握・分析することにより、その改善を図るとともに、これらの取組を通じて、学校における児童・生徒の体力・運動能力等の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
対象	都内公立学校の全児童・生徒
調査内容	・体力・運動能力に関する調査 ⇒握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルランまたは持久走、50m走、立ち幅とび、ハンド（ソフト）ボール投げ ・生活・運動習慣等に関する調査
調査時期	令和7年5～7月

2 調査結果の概要

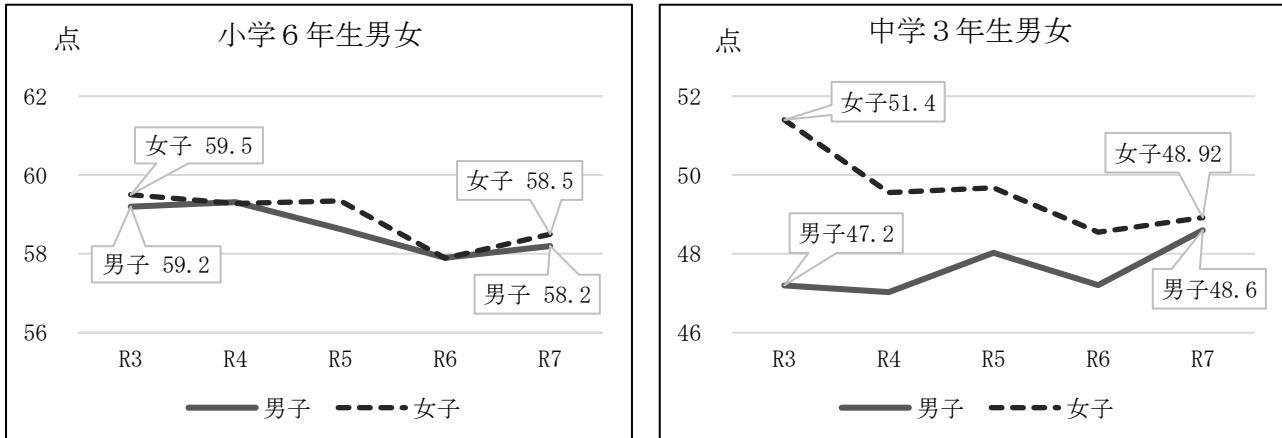
(1) 「体力合計点」の都の平均値との比較 「体力合計点」…上記調査項目の記録を得点換算し、全ての得点を合計したもの。
杉並区立学校の小・中学生の体力合計点平均値と東京都の平均値を比較すると、ほぼ同等となっている。

※ 小学校と中学校では得点換算方法が変わるために、中学校の数値は下がる。



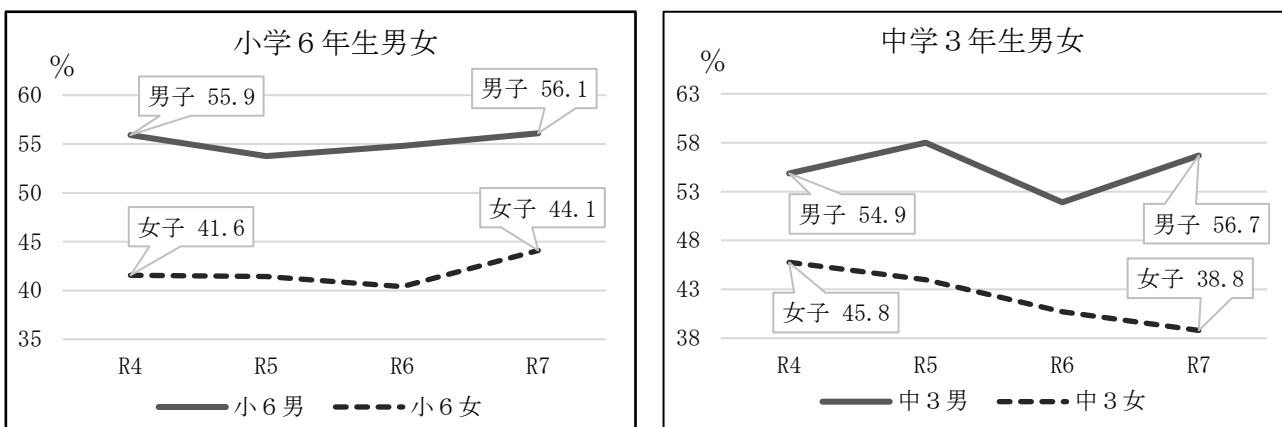
(2) 「体力合計点」の5年間の推移（令和3年度から令和7年度）

令和7年度における小6及び中3の体力合計点は、令和3年度と比較すると、小6男女及び中3女子においては下降傾向にあるが、全体的に令和6年度から上昇している様子が見られる。特に中3男子については令和6年度から大きな上昇が見られ、令和3年度の調査結果よりも高い値となっている。



(3) 「体育・保健体育の授業で、上手に体を動かして運動ができるようになった実感」の4年間の推移

体育・保健体育の授業での運動面における学習成果の実感については、中3女子については下降傾向が見られる。他方、小6男女・中3男子については上昇傾向が見られる。



3 課題及び今後の取組

(1) 課題

質問項目「体育・保健体育の授業で、上手に体を動かして運動ができるようになった実感」と「体力合計点」には統計的に相関関係があることから、自らの学習の成果を実感することが「体力合計点」に影響を与える要因の一つとして考えられる。中3女子の「保健体育授業における上達実感」及び「体力合計点」の低下が続いていることが課題である。

(2) 今後の取組

○ 学校

体育・保健体育の授業におけるICTの活用や運動が苦手な児童・生徒に対する取組など、一人ひとりの学習状況に応じた個別最適な学びをより一層充実することによって、児童・生徒が自らの体力の高まりを実感できるような授業改善をさらに実践していく必要がある。

○ 教育委員会

- ・令和8年度の研究課題として指定したグループ研究においては、個別最適な学びの実現に向けた授業の研究をさらに進め、公開授業を行うことによって成果を区立学校に広める。
- ・児童・生徒が自らの体力の高まりを実感できるような個別最適な学びの実現をねらいとした、教員向けの研修を実施する。
- ・中3女子の「体力合計点」及び「保健体育授業における上達実感」の低下の要因を分析しつつ、改善策を検討していく。